

豪ドル、月次 CPI に注目

- ◆豪ドル、5 月月次 CPI に注目
- ◆豪ドル、欧州政治不安による株価の動きに警戒
- ◆ZAR、海外からの投資流入で堅調地合い維持か

予想レンジ

豪ドル円 104.50-108.00 円

南ア・ランド円 8.65-9.10 円

6 月 24 日週の展望

豪ドルは底堅い動きと予想する。米金利がやや低下していることでドルが重いほか、欧州ではフランスを中心とした政局によるユーロへの投資リスクが台頭。円については、引き続き投資家による売り意欲が旺盛のなか、他通貨と比較して豪ドルは消去法でも買われやすい状況だ。

今週行われた豪準備銀行 (RBA) 理事会では、政策金利は予想通り据え置き、声明文では「インフレの上振れリスクに対して警戒」と発表した。また、ブロック RBA 総裁は会見で「利上げについても議論した」とタカ派姿勢を示した。RBA がタカ派の中で来週注目されるのは、26 日に発表される 5 月の月次消費者物価指数 (CPI)。4 月の CPI が、昨年 11 月以来の水準となる 3.6% まで上昇し、RBA のインフレ目標レンジ (2-3%) から再び遠ざかった。この状況下で 4 月に続き 5 月も再びインフレの高止まりが確認された場合には、豪州は日本同様に利上げの可能性の高い国となり、豪ドルが支えられそうだ。オセアニア 4 大銀行の一つ ANZ 銀行は、利下げ予想を今年の 11 月から翌年 2 月へと変更しているが、5 月 CPI が上振れれば他の金融機関も RBA の利下げ予想がこれまで以上に後ずれする可能性もある。なお、RBA のインフレ目標レンジへの到達予想は、これまで通り 2025 年の 4-6 月期と変更はなかった。

豪ドルの重しになるのは欧州の政局不安。欧州株を中心に、株式市場がさらに軟調に動いた場合は、リスク回避への動きに敏感に反応する豪ドルの上値が重くなってくる可能性もある。

なお、CPI 以外の経済指標では 25 日に 6 月ウエストパック消費者信頼感指数が発表予定。また、26 日にはケント RBA 総裁補佐、27 日にはハウザー RBA 副総裁がそれぞれ講演を行う。隣国ニュージーランドからは 24 日に 5 月貿易収支、27 日に 6 月 ANZ 企業信頼感が発表される。

南アフリカ・ランド (ZAR) は堅調な動きになりそうだ。国民統一政府 (GNU=Government of National Unity) が、アフリカ民族会議 (ANC) と野党第 1 党・民主同盟 (DA) などを中心に無事船出した。市場開放に積極的で、親ビジネスな DA の GNU 参加で、JP モルガンが南ア株の投資判断をアンダーウェイトからオーバーウェイトに引き上げるなど、海外投資家が南アへの再投資に動きつつある。目先、南アに大規模な海外資金流入がもたらされる可能性もあり、ZAR 買いを促しそうだ。なお、来週は 27 日に 4-6 月期 BER 消費者信頼感、5 月卸売物価指数 (PPI)、28 日に 5 月貿易収支と月次財政収支が発表される。また、日程は決まっていないが閣僚人事も発表される予定。

6 月 17 日週の回顧

豪ドルは強含んだ。対ドルでは 0.66 ドル台後半で底堅い動きとなり、対円では 2007 年以来となる 106 円手前まで上昇した。RBA 総裁のタカ派発言などが豪ドル買い要因。ZAR も大幅に上昇した。対ドルでは昨年 8 月以来となる 18 ランドを割り込み、対円では 2018 年以来の 8.85 円まで強含んだ。GNU に対する海外投資家の期待などが ZAR 買いを促した。(了)